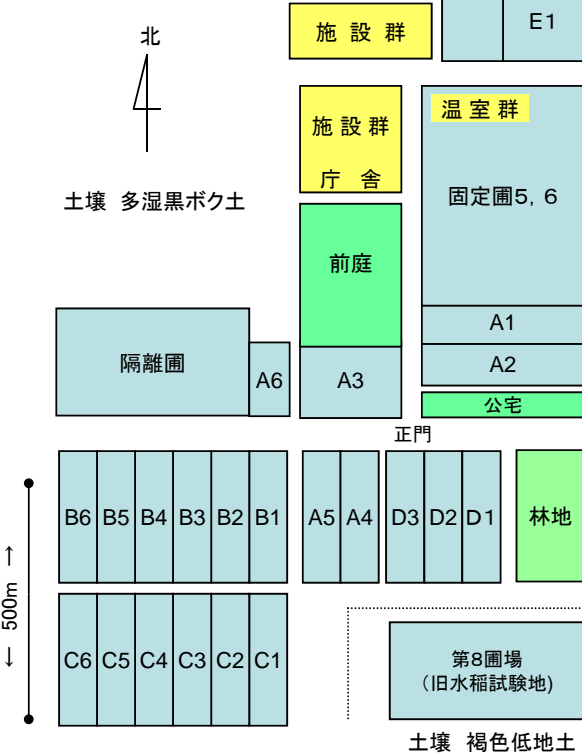


沿革

- 1907(明40)年 野付牛村(現北見市)に北海道庁立地方農事試験場北見分場として設置
- 1910(明43)年 北海道農事試験場北見支場に改称
- 1959(昭34)年 北見市から現在地(訓子府町)に移転完了
- 1964(昭39)年 北海道立北見農業試験場に改称
- 1998(平10)年 根釧農試から馬鈴しょ科が移転
- 2000(平12)年 技術普及部設置、技術体系化チーム発足
- 2007(平19)年 創立100周年
- 2010(平22)年 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構に移行、グループ制を導入

圃場図

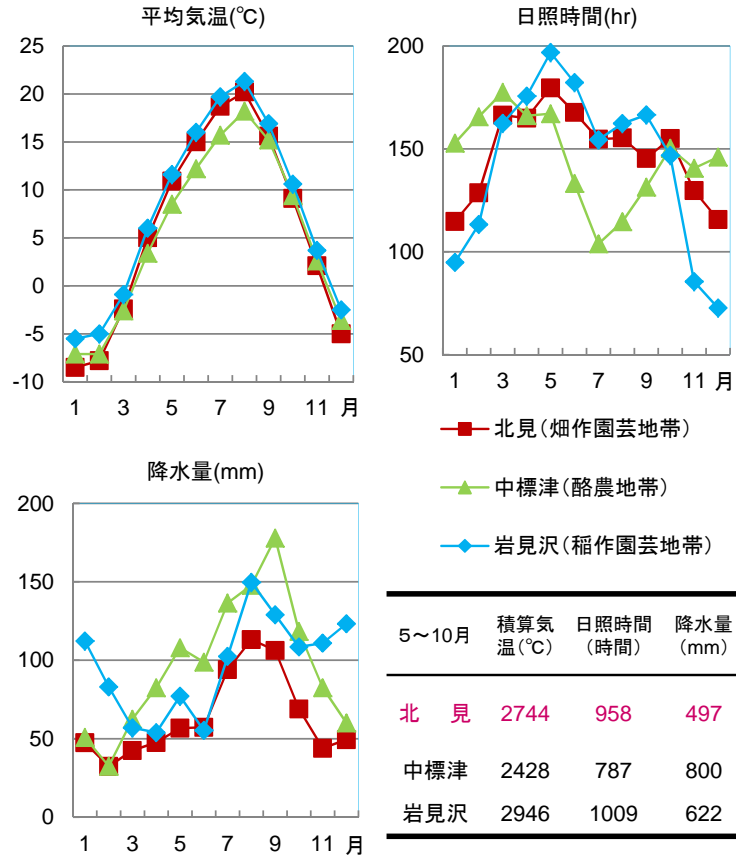
総面積 155.77 ha
 うち試験圃場 78.30 ha
 建物敷地 11.86 ha
 山林ほか 65.61 ha



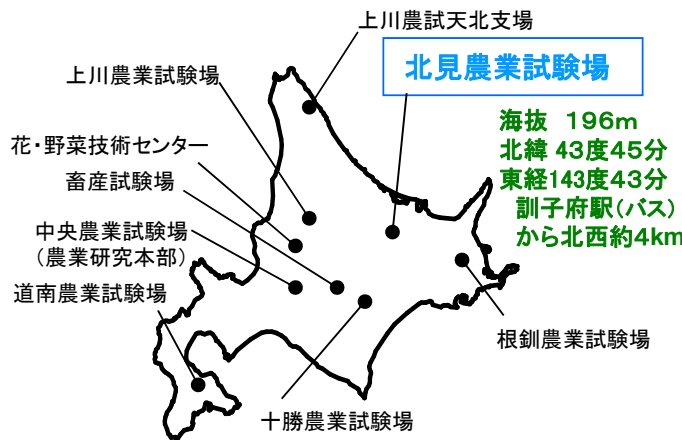
主な研究施設

バイテク共同実験室、病虫温室、牧草温室、小麦品質検定実験室、小麦緑体春化施設、小麦生育温室、てん菜分析室、てん菜育苗施設、園芸調査室兼温室、たまねぎ貯蔵庫、昆虫飼育網室、種子貯蔵庫、馬鈴しょ育苗施設

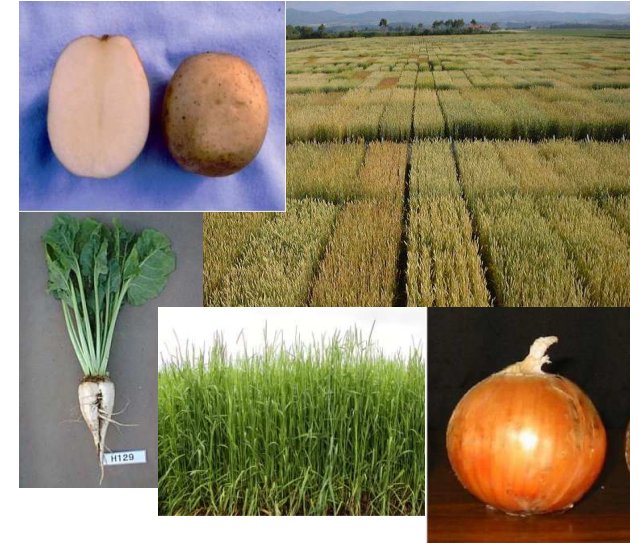
北見の気象



北見農業試験場の位置



見学のしおり



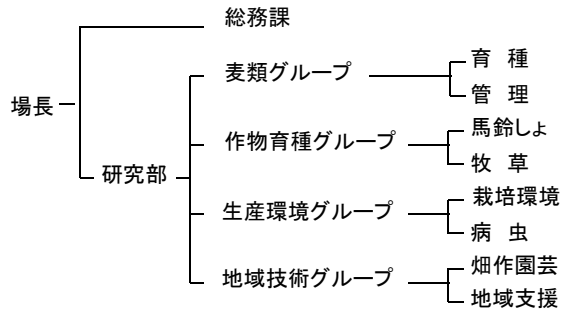
豊かな自然環境と調和した
 オホーツク農業をめざして



地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
 農業研究本部 **北見農業試験場**

〒099-1496 北海道常呂郡訓子府町字弥生52番地
 Tel.0157-47-2146 Fax.0157-47-2774
<http://www.agri.hro.or.jp/kitami/>

組 織



技術普及室(道農政部)

職員数 43名、うち研究職 29名(平成27年4月現在)

主な育成品種と 開発した新技術

■最近の育成品種

- ・春まき小麦「はるきらり」(H19)
- ・秋まき小麦「つるさち」(H24)、
「きたさちほ」(H23)、
「きたほなみ」(H18)
- ・馬鈴しょ「コナユタカ」(H26)、
「リラチップ」(H25)、
「コナユキ」(H22)、「さやあかね」(H18)、
「オホーツクチップ」(H16)、「スノーマーチ」(H16)
- ・たまねぎ「カロエワン」(H26)、「ゆめせんか」(H24)
- ・チモシー「なつびりか」(H26)、「なつちから」(H22)



■最近の新技術・試験成果

- ・混播草地における夏季更新の播種晩限(H27)
- ・でん粉原料用ばれいしょ「コナユキ」の安定多収栽培法(H27)
- ・遠紋地域における飼料用とうもろこし畑の生産阻害要因と土壌・肥培管理法(H27)
- ・たまねぎのべと病に対する防除対策(H27)
- ・小麦の雪腐黒色小粒菌核病および雪腐大粒菌核病に対する殺菌剤の残効性と防除時期(H26)
- ・硬質秋まき小麦「つるさち」の品種特性に対応した当面の栽培法(H26)
- ・有機物の肥効評価と局所施肥を活用した畑作物・野菜に対するリン酸減肥指針(H25)
- ・たまねぎ移植栽培における高畦の効果(H25)

各グループの主な研究内容

麦類グループ 育 種

北海道に適する高品質安定多収な秋まきおよび春まき小麦新品種の育成を行っています。赤かび病、雪腐病、縞萎縮病などの病害や穂発芽などの障害に強く、うどん、パン、中華めん、菓子に適する品種の開発を目標としています。また、他機関で育成されたビール醸造用の二条大麦有望系統について、オホーツク地域における適応性検定を行っています。

管 理

圃場作業計画、試験圃場や緑肥圃場の栽培管理、農作業機の整備などを行っています。

作物育種グループ

馬鈴しょ



北海道、特に道東・道北に適する高品質安定多収な馬鈴しょ新品種の育成を行っています。ジャガイモシストセンチュウ抵抗性があり、そうか病、疫病などに対し耐病性を持つ、でん粉原料、ポテトチップなど油加工、コロッケなど業務加工に適する品種の開発を目標としています。

牧 草

北海道および東北向けの安定多収なチモシー新品種の育成を行っています。採草用では極早生～晩生の熟期で栄養価、永続性、耐病性など、放牧用では季節生産性、再生力などに優れる品種の開発を目標としています。また、牧草とサイレージ用とうもろこしについて、他機関で育成された有望系統や海外導入品種のオホーツク地域における適応性検定を行っています。

生産環境グループ

栽培環境

環境に配慮しながら高品質な農産物を安定生産するため、土壌、水と作物の関わりを中心に研究しています。現在は、土壌や作物の診断技術の開発・高度化、施肥法改善や有機物を活用した減化学肥料栽培、施肥指針の策定、新しい肥料・土壌改良材の実用化、土壌調査などに取り組んでいます。

病 虫

オホーツク地域で栽培されている主要な畑作物や野菜に被害を及ぼす重要病害虫について発生生態を調べ、被害を予測し、防止・低減する防除技術の開発を行っています。また、病害虫の発生予察調査、突発および新発生病害虫診断、新農薬の実用化試験など病害虫対策の基本となる試験を行っています。



地域技術グループ

畑作園芸

てん菜および大豆、小豆、菜豆について、オホーツク地域に適する品種系統の選定や品種育成のための特性検定を行っています。また、たまねぎについて、多収で耐病性に優れ、加熱調理などに適する加工・業務用新品種の開発、および低コスト栽培法に関する試験を行っています。



地域支援

地域に密着しながら地域の課題を解決することを目的に、新技術の導入や既存技術の実証・応用などに取り組み技術体系化試験を実施しています。また、技術普及室とともにオホーツク総合振興局、網走農業改良普及センターと連携して、地域農業技術支援会議の活動などにより、現場密着型の課題解決に当たっています。